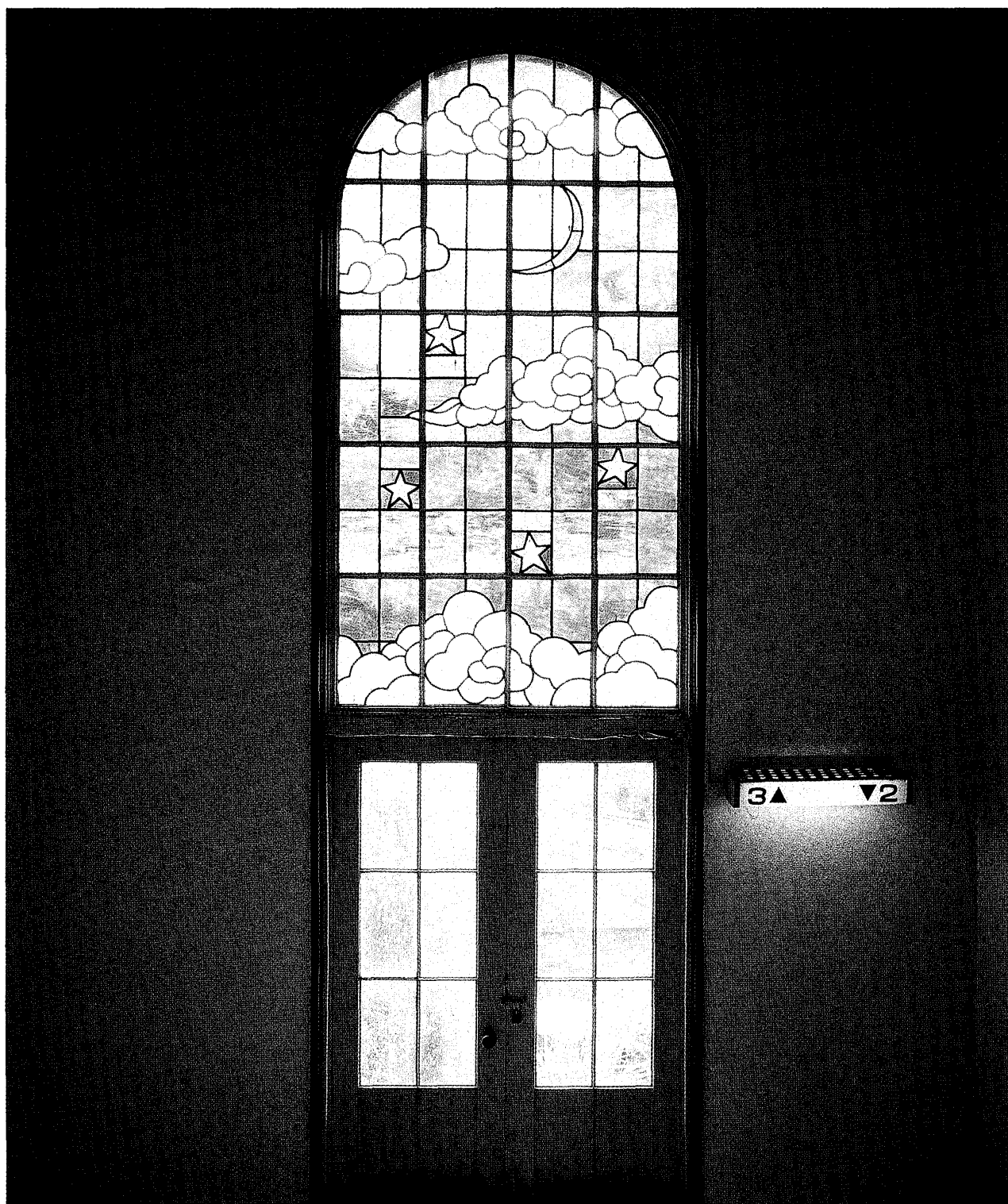


ステンド・グラス物語

The Stained Glass Story in Japan

水 野 信 太 郎

MIZUNO, Shintaro



作品ー1 別府市中央公会堂2〜3階踊り場ステンド・グラス



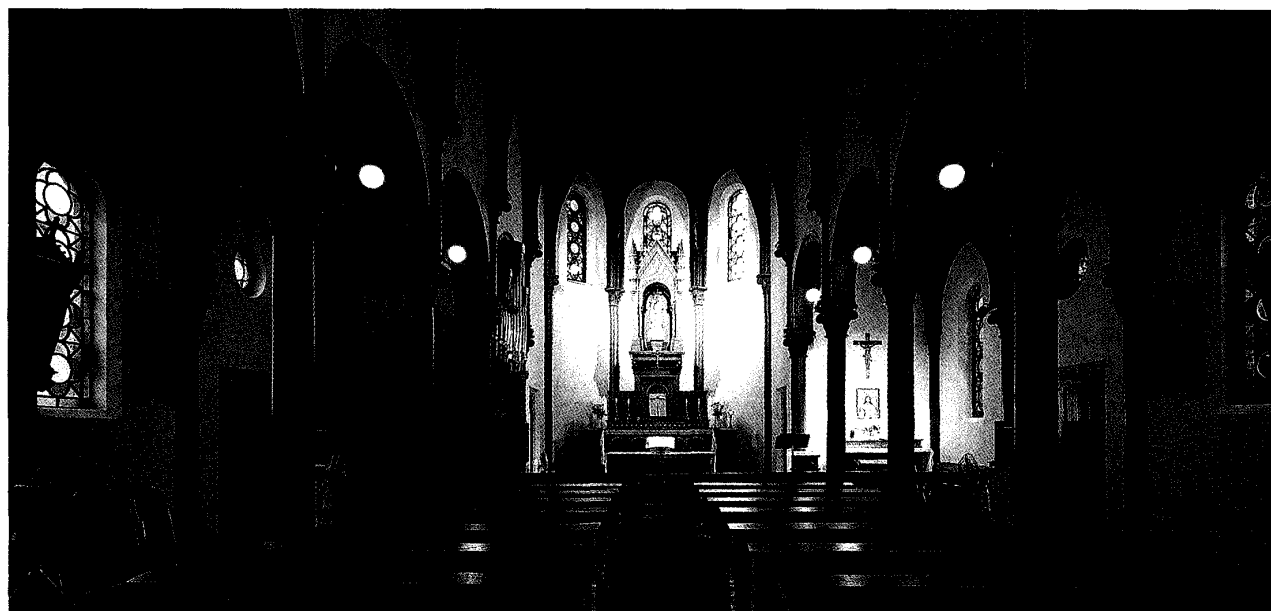
作品—2 五島軒1～2階の階段踊り場ステンド・グラス



作品—3 国立科学博物館3階アーチ部ステンド・グラス



作品—4 横浜市開港記念会館1～2階ステンド・グラス



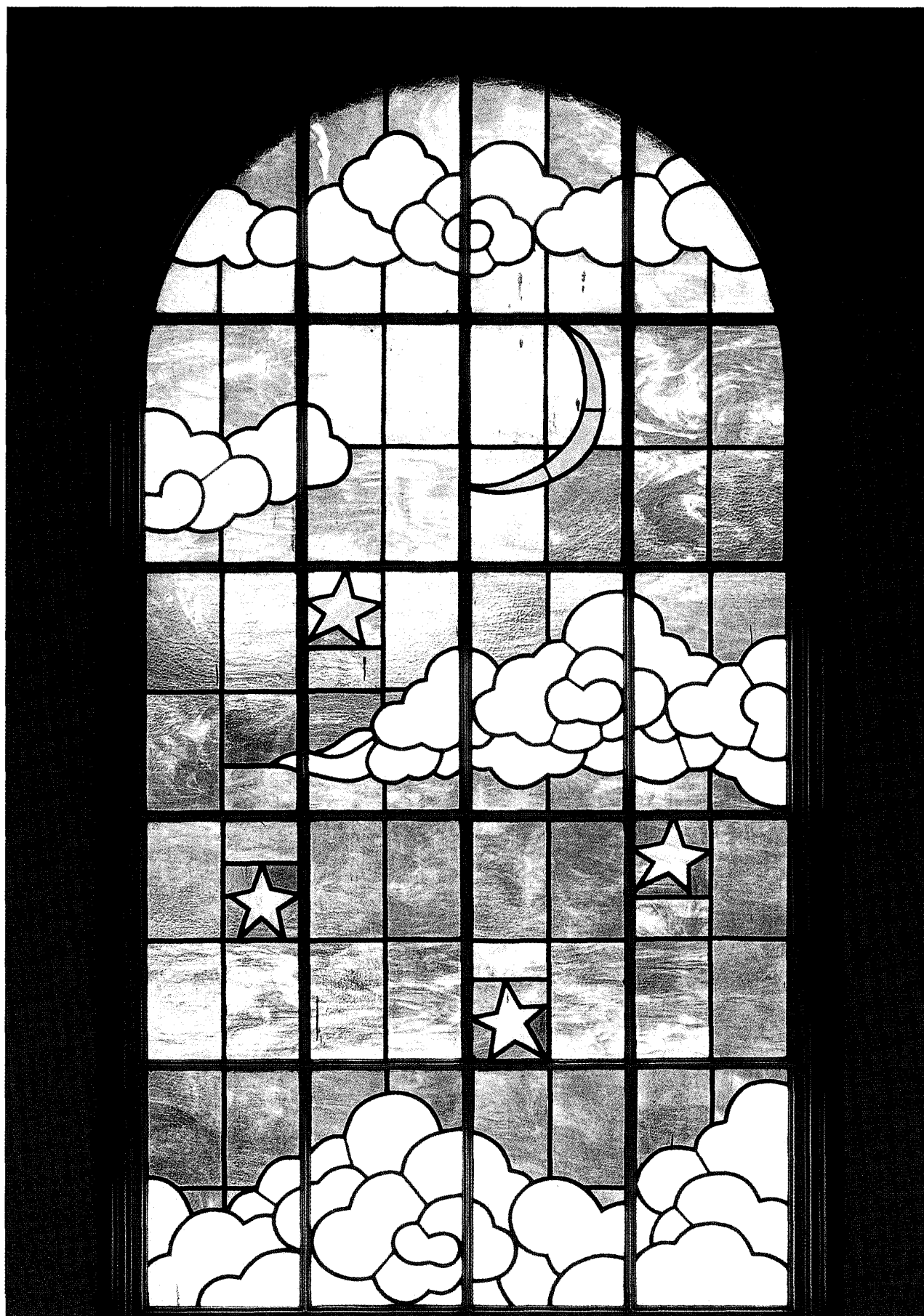
作品—5 旧大名町カトリック教会堂のステンド・グラス



作品—6 萬翠荘1～2階の階段踊り場ステンド・グラス



作品—7 宝亀カトリック教会堂1階のステンド・グラス



作品一8 別府市中央公会堂踊り場のステンド・グラス近影

生涯学習の一領域に含まれる歴史的建造物への訪問と関心という行為にあって、ステンド・グラスは有益な学習対象となる。最大の理由は、ステンド・グラスに採用される図像には、その建物の用途に最も相応しい美術が的確に具現されるという点にある。なお、建築物の設計者とステンド・グラスのデザイナーが同一人であるか否かという問題に関しては、それぞれ両方の場合があるので、一概には断定できない。

作品―1は、南国・大分県別府という温泉観光地の中央公民館・市民会館のステンド・グラスである。所在地は、別府市上田の湯町6-37。この建築作品はモダニズム建築家として名高い吉田鉄郎の設計になる。吉田は、この建築物だけでなく、別府市役所の西庁舎も手がけた。これら両作品の竣工は、どちらも昭和3年であった。

ヨーロッパ式の古典的な手法に対して、新しい色ガラスを考案・開発したのがアメリカ系のステンド・グラスである。作品―2の各部を見ると、乳白色のガラスが使われている。このような色ガラスを発明したのが、宝石商2代目のルイス・カンフォート・ティファニーであった。レストラン五島軒は函館市末広町4-5に、亀井勝次郎ほかの設計で昭和9年に完成。評論家・亀井勝一郎の実弟である設計者は、この年に早稲田大学の建築学科を卒業したばかりだった。彼はその後も故郷に残り、少なくとも昭和16年現在なお函館市本町32で建築設計事務所を開設していた。

作品―3に掲げた国立科学博物館は東京都台東区上野公園7に昭和6年建てられた。文部省の小倉強が設計を担当。後に彼は仙台高等工業学校建築科を開く教育者、また建築史研究者として活躍する。大きな吹抜け最上階の半円アーチに、博物館の主題である自然界の生き物たちが華やかに生息している。作品―4の横浜市開港記念会館は神奈川県横浜市中区本町1-6に建つ。横浜が開港して50周年の記念で、竣工は大正6年。設計者は横浜市技師であった山田七五郎と佐藤四郎で、山田が明治32年、佐藤は大正2年に、いずれも東京帝大の建築学科を卒業した。山田は初代の横浜市建築課長をつとめた。いかにも港・横浜らしいモチーフである。

作品―5に示す旧大名町カトリック教会堂は、もと福岡市中央区大名2-7-7に建てられていた。当時は地名の通り歴史的な武家屋敷であったが、同教会の3代目神父であるフランス人宣教師ベレール神父の設計にて明治27年竣工。現在は福岡県久留米市に移築され、保存・活用されている。作品―6は萬翠荘(ばんすいそう)と呼ばれる北四国第一級の西洋館、現在の愛媛県立美術館の分館である。1階から2階へ登る途中の階段踊り場にあるステンド・グラスである。透明感の高い、それでいて色濃い色彩を放っている。松山市一番町3という極めて良好な位置に大正11年、木子七郎の設計で竣工した。建築物も室内の家具も装飾的である。

作品―7宝亀(ほうき)カトリック教会堂は、平戸市宝亀町1170に残る明治32年完成の建築物。非常に古い形態を残している小規模なキリスト教会堂建築である。ステンド・グラスにも原初的な素朴さが痕跡として残存しており、ガラスは原色に近い各ピース単色調の色ガラスである。作品―8は、作品―1に掲げた別府市中央公会堂ステンド・グラスの近影である。ロマネスク様式の半円アーチが特徴的で、その中に雲が流れる月夜を鮮やかな色調で仕上げている。三日月を黄色いガラス1ピースで構成することを、あえて避けて3分割して制作した。